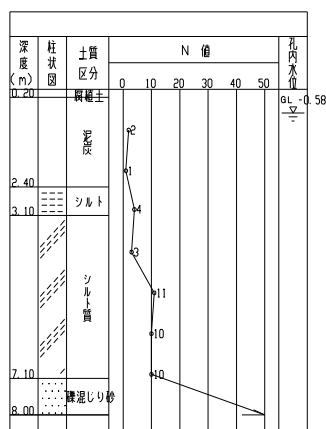


施工報告書

工事名 ハイパーセル公開試験

ハイパーセルは梱包時には棒状であり、敷設時に広げることにより三次元ハニカム状になる材料である。このハニカム状の筒中に砕石等の材料を敷き詰め、路盤補強や法面保護、擁壁に使用する。したがって、期待できる効果は荷重分散効果、エロージョン防止効果である。ハイパーセル工法は 1980 年代にその研究が始まり、海外においては軟弱地盤上の道路・鉄道路盤の耐久性の向上、盛土法面保護、(植生) 擁壁として使用されている。

北海道亀田郡七飯町中島地区 現場の泥炭層と柱状図



- ・ 試験ヤードとなる北海道亀田郡七飯町中島地区のボーリング柱状図
- ・ GL-0.00～0.20－腐植土：繊維物混入。
- ・ GL-0.20～2.40－泥炭・N 値=1：全体に含水比多く腐植物を混入する。
- ・ GL-2.40～3.10－シルト・N 値=4：粒子均一で腐植物が点在する。
- ・ GL-3.10～7.10－シルト質火山灰・N 値=8.5：粒子不均一で粘性中位。
- ・ GL-7.10～8.00－礫混じり砂・N 値=50。



施工写真 上左：端部位置出し 上右：端部固定 下右：セル接続（エアーステープル）



N 値 = 0 の泥炭上に敷砂
土木 PP シート
ハイパーセル
HyP08-150-25

写真：粒度調整碎石運搬ダンプは、ブル押しした未転圧の碎石の上を走行している。

ハイパーセルは、ジオセル・マットレス工法（三次元補強）として仮設道路にも適しています。

試験盛土と沈下測定
(別 Case Study にて報告)

